

■第3回番町次世代シンポジウム 議事要旨

開催日時：2026年1月25日(日) 午後3時～午後5時

出席者：68名

ファシリテーター：東京大学 加藤 孝明 教授

ファシリテーター補佐：東京大学大学院生 内藤 克子氏

コメンテーター(専門家)：東京大学 村山 顕人 教授

オブザーバー：日本テレビ放送網(株)

事務局：千代田区 環境まちづくり部 地域まちづくり課

プログラム：1)シンポジウムの開催趣旨
2)プログラムの説明
3)前回の振り返り
4)未来の空間をイメージする
5)エリアマネジメントの基礎知識
6)今後の予定

【議事要旨】

1 シンポジウムの開催趣旨

区から以下を説明した。

- ・本シンポジウムは二番町地区地区計画の変更手続きに伴う附帯決議に基づき地区の融和を図り、前向きに話し合える場づくりとして実施
- ・令和7年1月に開催された第1回シンポジウムでは番町地域全体の前向きな未来について議論し、同年9月に開催した第2回シンポジウムでは、これから日本テレビが計画していく中で心配事の解消や配慮に向けたリクエストを出す場として議論
- ・これらを踏まえ、今回は「前回の振り返り」、「地区計画の内容について模型を用いた立体的、視覚的な理解」、「エリアマネジメントの基本的な事項の認識共有」を目的として実施

2 プログラムの説明

ファシリテーターから、資料1により、本シンポジウムの目的や、3部で構成される本シンポジウムの各概要を説明した。

3 前回の振り返り

まず、事務局より、資料2及び3により、第2回シンポジウムのまとめ及びシンポジウム等での意見を踏まえて区から日本テレビに発出した要望書の概要を説明した。その後、ファシリテーターから、第2回シンポジウムのまとめにおける3色の色分け(緑・黄・赤色)に関して、以下の補足説明がなされた。

緑色：心配の必要が低い(解消済み)

黄色：今後の検討の中で解消(日本テレビが計画を具体化していく際に整理されていく事項)

赤色：要検討(新たな場での検討が必要となる事項)

4 未来の空間をイメージする

まず、事務局より、資料4により二番町地区地区計画の概要を説明した。その後、参加者を2つのグループに分け、会場中央に配置した模型(1/300スケール)の前で参加者・ファシリテーター・コメンテーターによるフリーディスカッションを行った。

フリーディスカッションでは、大きく以下の観点からの意見が挙げられた。

- ・地区計画において規定されている壁面ラインと建築面積・容積率の関係性
- ・広場の向きと日当たり、および一部ピロティ(上空に建物床が来る)形式となることの確認
- ・交通広場を利用するバスやタクシー、新築ビルの駐車場、キス&ライドの交通動線
- ・周辺も含めた建築物の高さと地区計画高さの最高限度

5 エリアマネジメントの基礎知識

まず、事務局より、資料5により「千代田区エリアマネジメントのすすめ」を使用しながら、資料6によりエリアマネジメントの基礎的な説明を行ったうえで、住宅地を中心に他地域におけるエリアマネジメントの多様な事例紹介を行った。

その後、コメンテーターから、参加者の地域活動への参画状況を伺ったうえで、エリアマネジメントの意義や、助走期間として現段階から考えていくことの必要性、番町の特성에あった体制・取り組み・財源のあり方を取り入れていく必要性に関して説明がなされた。

6 今後の予定

区から、現時点では日本テレビ跡地計画の具体的なスケジュールは未定であるが、日本テレビの基本計画を説明する場として、次回シンポジウムを開催していきたいことを説明した。

以上

